

新潟県企業短期経済観測調査の概要

(業況感)

- **業況判断 D. I.** は、「良い」超に転化した。  
—— 製造業は「悪い」超幅が縮小した。非製造業は「良い」超幅が拡大した。

▽主な業種別の変化要因

		業種	主な要因
製造業	改善	食料品、繊維、木材・木製品、鉄鋼、はん用・生産用・業務用機械、輸送用機械	消費活動の回復 部品調達難の緩和 価格転嫁の進捗
	悪化	金属製品	需要の低迷
非製造業	改善	建設、電気・ガス、宿泊・飲食サービス	公共工事の受注 人流の回復 価格転嫁の進捗
	悪化	小売、情報通信、対個人サービス	コストアップによる利幅縮小 猛暑の影響

- **先行き**については、「良い」超が解消する見通しである。  
—— 製造業は「悪い」超が解消する見通し。非製造業は「良い」超幅が縮小する見通し。

(事業計画)

- 2023 年度は、**売上高**が前年を上回る計画、**経常利益**が前年を大幅に下回る計画である。  
—— 経常利益は、製造業では、コストアップによる利幅縮小や海外経済の回復ペース鈍化の影響などから、非製造業では、コストアップによる利幅縮小などから、それぞれ減益計画となっている。  
—— 経常利益を前回調査対比で見ると、製造業、非製造業ともに、価格転嫁の進捗などから、それぞれ上方修正となった。

- 2023年度の設備投資は、前年を大幅に上回る計画である。
  - 製造業、非製造業ともに、能増投資や更新投資のほか、前年度に先送りした投資計画の実施などから、前年を上回る計画である。
  - 前回調査対比で見ると、製造業、非製造業ともに、上方修正となった。

(その他の判断項目)

- 販売価格判断D. I.は、「上昇」超幅が拡大した。仕入価格判断D. I.は、前回調査並みの「上昇」超幅となった。
- 雇用人員判断D. I.は、「不足」超幅が拡大した。
- 資金繰り判断D. I.は、「楽である」超幅が拡大した。貸出態度判断D. I.は、「緩い」超幅が縮小した。借入金利水準判断D. I.は、「上昇」超幅が拡大した。

以 上